



ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



2015年度事業計画と予算が決定

4月19日、2015年度の年次総会がMJET事務局において開催されました。午後2時、委任状を含む会員10名の出席により、総会は成立し、直ちに議事に移り、2014年度の事業報告と決算報告が承認されました。続いて、2015年度の事業計画が審議され承認されました。主な審議・決議事項は以下のとおりです。

- **植林の一部がひん死状態に、改善策に取組中**
2014年の「参加型エコツーリズム事業」では、1,018本をKone Tan Kyi村に植林したが、10月以降、政府の水道水が来なくなり、水不足が深刻となった。その結果、苗木の多くがひん死の状態にあることが判明した。早急に井戸を改修するために\$800を差し当たり寄付することとした。
- **ウェブサイト改善して広報力をアップ**
「広報事業」では、ウェブサイトを全面的に改訂し動画を入れると共にアクセス数をチェックできる仕組みをつけ、アップロードした。また、記念の森のパンフレットおよびMJETのパンフレットを改訂した。2014年10月18・19日に芝の増上寺にて開催された「ミャンマー祭り」に出店し際には、約100名の訪問者があった。
- **広報を強化するために役員の担当を再編**
藤村会長(事務局長を兼務)、菊池副会長、神田理事、平湯理事、牧野理事、藤本監事が継続して留任するが、牧野理事は、藤村会長と共に組織強化企画・広報チームを担当する。
- **植林ツアーに多数の学生参加を期待**
「参加型エコツーリズム事業」の本年度のツアーは、20~25名の学生参加者を予定し、8月22日(日本出発日)から8月30日(帰国日)の旅程で、In Daing村で800~1,000本およびThant Sin Kyae村の植林を予定する。(日程は後日8/28~9/5に変更)
- **農村の環境改善と生計向上への取り組みを開始**
「農村開発支援事業」では、Thant Sin Kyae村等で「ネリカ米の本格試験栽培」を20農家の参加を得て実施する。

「ゴミ処理実証研究」ではIn Daing村でモデルの確立を図ると共に、岡本先生と協力してThant Sin Kyae村で、村人が主体的に実施できるモデルの応用を検討する。

● 学生部の活動の強化

「学生部の活動」では、学生会員(特に東京外国語大学生)の確保に努力する。学生会員が興味を持って注力できる活動として、バガンの小学校の教育改善の進め方について、先生達と十分討議・検討して計画を立案する。

計画打合せミッション報告

—法政大学学生のミャンマー訪問と共に—

2月28日~3月12日、藤村会長は法政大学・弓削昭子教授のゼミ生12人のミャンマー訪問を支援しつつ、MJET計画打合せミッションを実施した。

法政大学の学生は、経済班、環境班、人材養成班の3グループに分れて、それぞれ「コールドチェーンシステム」「ゴミ収集処理システム」「経済発展と人的資本の関係性」という課題に着目し、ミャンマーの政府関係機関、援助機関、民間企業、現地の大学教員・学生との討論を通して問題を把握と解決策を検討した。

MJETとしては今後このような大学ゼミ生のミャンマー学習を支援することを活動の一形態として取り入れることも視野にいれたい。



タウンジー大学の教員・学生と共に

MJETの計画打合せ事項としては、報告書に記載のとおり、今年の植林ツアーのサイトを決定すると共に、昨年植林したKone Tan Kyi村の水問題とゴミ処理実証研究プロジェクトおよびネリカ米の試験栽培状況を把握することができた。



ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



In Daing 村での緊急課題！

● ゴミ処理の実態調査の結果

In Daing 村は世帯数約 150、人口は 780 人程の村で、村の中には小学校と中学校が存在する。2014 年の学生部を中心とする村での聞き取りの結果、ゴミ管理に関する村のルールはないことが判明した。決められたゴミ捨て場はなく(実際には村外に 5 カ所の事実上のゴミ捨て場があった)、生ごみは家畜の餌としている。その他のごみ(ボトル、カン、ビン等)は廃品回収業者が月に 2 回各戸を訪問し回収している。また、買い物用やお菓子のプラスチックの包装用紙などは、落ち葉のように川に捨てたり、場合によっては、焼却していることが判明した。



道端に捨てられたゴミ

● 衛生改善のためにゴミの収集処理をシステム化

また、In Daing 村をモデルとする「ゴミ・ゼロ」モデルの実証研究に協力してもらえるかを尋ねたところ、原則同意を得ることが出来た。

2015 年度は村の委員会の下に Village Cleaning Committee を設置し、月に一度 Village Cleaning Day を設けて、村人が村および周辺をきれいに清掃することとする。また、生ごみ・ビン・ペットボトルなどの分別を継続するとともに、新たにゴミ捨て場を設定し、買い物用プラスチック袋などのゴミは穴を掘って埋めるよう(衛生埋め立)推奨していく。ゴミ処理の方法は、更に研究を重ね、8 月の訪問時に詳細を詰めていく予定である。

一方、Thant Sin Kyae 村でも、村長がゴミ処理問題が最大の頭痛であると述べていたので、In Daing 村の成果を伝えて問題解決への貢献を図りたい。

いよいよ「ネリカ米」をバガンへ！

「ネリカ米」は、Wikipedia でも紹介されている、アフリカのイネとアジアのイネを交配して作られた新品種のイネのことです。

(<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%8D%E3%83%A3%E3%82%AB>)

このイネは以下のような幾つかの優れた長所があり、アフリカにおいて、急速に普及され、今では約 70 万 ha で栽培されているといわれています。

- 種まきから収穫までが 90~110 日と短い。
- 乾燥に強く、3 週間くらい雨が降らなくても枯れない。
- 病害虫にも抵抗性が強い。
- タンパク質が 10%と在来種よりも高い。

バガンがあるミャンマー中部の乾燥地は約 180 万 ha もありながら水田稲作ができないため、農家は主として乾燥に強い豆類を栽培し、これを売って主食のコメを買っています。西アフリカでは、在来種のコメが 0.8 トン/ha であるのに対して、ネリカ米は 1.5~2.5 トン/ha の収穫があるため、人気が高まっています。

MJET は、乾燥に強いというネリカ米の長所に着目し、ミャンマー農業省の農業研究所の協力をえて、今年の 3 月からバガン近郊の農家の土地で試験栽培を開始しました。N3 と N8 という 2 種類の種を播き、3 月にサイトを訪問したところでは、順調に育っているように見えます。



N3: 稲穂が出始めた段階(2015年4月29日撮影)

5 月下旬から 6 月初旬にかけて収穫されたのち、品評会と結果の分析を行うことになっています。この結果をもとに 8 月の雨期には、20 農家の農地に直播で試験栽培を行う予定です。



ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



ご卒業おめでとう！

学生部の古城真理子さんと谷田部紗也加さんが大学を卒業されましたので、3月22日(日)にMJET事務局において、6名が参加して祝賀会を開催しました。社会人となってもMJETをお忘れなく！



学生部の活動を強化します！

学生部長 吉野 恵(東京外国語大学4年)

2015年度学生部の新部長となりました、東京外国語大学ビルマ語専攻4年生の吉野です。どうぞよろしくお願いいたします。2012年にMJETに参加、2014年は留学中だったためヤンゴンのみの参加となりました。今後、以下のような強化策に取り組みます。

● 学生部員を確保

現在学生部には3名しかおらず、一緒に活動に参加してくれる学生勧誘に力を入れていきます。副部長の芝崎さんとともにFacebookなどを利用してMJET学生部の広報活動にも力を入れていきます。

● 植林ツアーに積極的に参加

学生部では8-9月の村での植林活動に向けて、月に1、2回ほどのミャンマーについての勉強会やビルマ語教室を開催し、ミャンマーに対する知識・理解を深めていく予定です。また、植林参加者同士の交流を深めるために、交流会の企画も予定しています。訪問する村でのミャンマー人との交流会で行うユニークな出し物の練習も行います。

● 新プロジェクトを企画

学生部の新プロジェクトとして、小学校の教育問題を取りあげていこうと考えています。ミャンマーの小学校教育におけるカリキュラムの現状などから問題点・改善点を見つけ出し、現地の先生と一緒に改善できるところを実施していこうと思います。

そのために、今回のミャンマー訪問では実際に小学校を訪問・調査して現状を把握します。日本にいても、ミャンマーと教育について勉強会を5月中に1度行います。

● 他の学生団体との関わりを強化

ミャンマーと関わるほかの学生団体との交流にも積極的に関わっていかれたらと思います。学生部が今後さらなる活躍ができるような場所へと変わっていきけるように、吉野・芝崎で頑張ってまいります。

初めてのミャンマー：瞑想を体験



芝崎 文子(法政大学3年)

大学の春休みを使って、ヤンゴンに滞在しました。最初ヤンゴン空港に着いた時は、荷物を運んでタクシーまで誘導してくれる人にさえいぶんと警戒していましたが、出会う人出会う人が親切で、たった数日の滞在でしたのに、わたしはこの国のことが大好きになりました。

印象深かったのは、寺院での瞑想体験です。スティーブ・ジョブズなど数々の有名人が実践していると知り、以前から興味を持っていました。お坊さんたちは、日々瞑想を行うことで、怒りの感情を持たなくなるとお話をしました。日本に帰ってから調べてみると、これには科学的根拠もあるそうで、他にも瞑想を習慣的に行うことにより、集中力・記憶力・想像力の向上、情緒の安定、ストレス軽減など効果は絶大なようです。

実際に15分間、鼻の呼吸にのみ集中し、瞑想を試してみましたが、鳥の音が気になったり、食中毒でお部屋でダウンしている友人のことを心配してしまったり(笑)「何も考えない」ということは、初心者にはなかなか難易度の高いものでした。それでも、終わった後は清々しい気持ちになり、毎日、自然の中で瞑想をする生活を送れば、感性が研ぎ澄まされそうだと感じました。心優しく、忍耐力のあるミャンマー人のお国柄は、瞑想の習慣にも関係しているかもしれません。



ミンガラバーMJET News Letter

13-3-504, Minami Motomachi, Shinjuku-ku, Tokyo Japan 160-0012
Tel: 03-3353-6377, Fax: 03-3353-6377, E-mail: info@mjet-tokyo.com



ミャンマー・エコツーリズム紀行 —インレー湖の神秘—

ミャンマーは神秘的な国である。仏教国でありながら、ナツ信仰といわれる精霊が宿る場所が多い。ポップア山は特に有名だ。日本の神社や氏神さま、お地蔵さまに似ているようなところがある。

インレー湖は片足漕ぎの船と浮き苗床で有名だ。船を動かすのに、片足で櫓を漕ぐのが非常にユニークだし、浮き苗床にトマト、きゅうり、ナスなどをたくさん植えている。これらに化学肥料を播くので、これらが沈殿し魚が汚染されていると聞いたが、今でも漁をしている人がたくさんいるのには驚かされる。



片足でボートの櫓を漕いでいる人



ファウンダーウーパゴダ祭り(ミャンマー観光情報局)

ファウンダーウーパゴダ祭りは満月の日の2週間前から始まり満月後の3日目まで行われる。2015年は10月13日早朝4時に始まり、ファウンダーウーパゴダからボートに4体の仏像を船に乗せてインレー湖周辺にある20の村々を巡回する。昔5基の仏像を載せて湖を巡っていたが、1基が水中に落ちてしまった。インレー湖の底に潜って探しても見つからなかったが、その後この仏像が元あった場所近くの湖岸に現れたことから、不思議な力があると信じられているという。

(藤村記)

植林ツアー参加者の募集を開始

今年の植林ツアーは8月28日から9月5日に実施されることになりました。例年8月下旬でしたが、東京外国語大学生の現地参加を可能にするために、時期を遅らせました。

そこで、出来るだけ多くの学生さんに参加を呼び掛けてくださいますよう、お願いいたします。できるだけ、**6月6日(土曜日)までに**参加者名を事務局宛にお知らせください。

現地での費用がドル建てになっているため、今年は、円安の影響を受けてやや高くなりそうです。現在、航空会社と運賃の値下げ交渉を進めています。

「記念の森」募金へご協力をお願い!

これまでに「記念の森」には下記のとおりたくさんの方々から寄贈をされています。

記念の森	2011	2012	2013	2014	計
2人の森	75	50	30	160	315
家族の森	425	710	190	450	1,775
企業の森	500			240	740
恩師の森			1200	30	1230
計	1,000	760	1,420	880	4,060

これらの「記念の森」は、現地の村の中核の森として、立派に育っており、いつの日か寄贈された皆様に実際に訪問していただきたいと願っています。

また「記念の森」は Thant Sin Kyae 村では、子供達が休み時間を快適に過ごすかけがえのない憩いの場所になっています。今後とも村々の快適な環境が形成されるよう、より多くの「記念の森」の寄贈が求められています。

皆様の植林募金活動への一層のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

